

令和2年度学校評価結果による課題と改善策

「令和2年度 学校評価の結果と状況分析」を踏まえ、学校として次年度に向けた課題と改善策を以下のように検討した。

<p>課題1 生活習慣の改善と健康づくり</p>	<p>保健部の取り組みとして、今年度、自分手帳を活用した生活習慣の改善と健康づくりを行っていくこととしていた。しかし、活用方法や活用場面など、具体的な取り組みについて示されていなかったため、一部学習グループや教員による活用にとどまった。</p> <p>また、学校保健便りや学級通信などで保護者に周知する機会は見られたが、保護者が実際に手にする機会はなく、十分認識するまでには至らなかった。</p> <p>自分手帳は児童生徒一人一人が自己の体力や健康に関心をもち、学校での保健指導や体育指導の内容を生かしながら、運動習慣や生活習慣の改善に進んで取り組む契機となる。また、家庭においては健康や体力に関する一般的な傾向が分かり、成長とともに変化する健康状態や体力の推移を把握することにより、肥満や痩身、専門医の受診や予防接種等の対応、体力や健康への関心など、身体や健康に関して学校との具体的な連携が可能になる。学校においても、家庭との連携のもと、体育・健康に関する指導を教育活動全体を通じて適切に行うことで、児童生徒一人一人に望ましい運動習慣等が形成されるなど、大変有効であると考えられる。本校として自分手帳をいかに家庭、学校で有効に活用していくか、具体的に検討していく必要がある。</p>
<p>改善策</p>	<p>①教員に対しては自分手帳の具体的な活用方法について、保健部から提案する。その提案に基づいた実践。</p> <p>②保護者が自分手帳を見たり、記録したりする機会を設け、児童生徒の健康や成長に関心をもてるようなツールとして活用する方法を具体的に整理する。</p>
<p>課題2 伝える力の育成</p>	<p>高等部生徒のアンケートから、自分の思いや考えを伝えたり、困ったときや悩んだときに相談したりすることに関する課題が明らかになった。</p> <p>また、児童生徒の将来の生活に必要な力を育てる取り組みに関して、高等部の教員の評価は「やや良い」が半数を占め、小学部、中学部の教員と比べて、「良い」の割合が低くなっている。</p> <p>卒業を間近に控えた生徒を指導する教員として、さらに充実した指導の必要性を感じていることが分かり、生徒が抱えている課題と関連していると思われる。</p> <p>しかし、自分の思いや考えを伝えたり、困ったときや悩んだときに相談したりできるようになるためには、小学部段階から意図的に育てていかなければならない力であり、高等部の課題ではない。学校全体としていかに力を育てていくのか、教員間で共通理解を図り、実践していかなければならない。</p>
<p>改善策</p>	<p>①将来の生活に必要な力として、自分の考えを伝えたり、困ったときに相談したりできる力を育てていく必要性について、共通理解を図る。</p> <p>②各学部において、具体的な指導内容について明確にして実践する。</p>